

教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価

(平成23年度対象)

報告書

平成24年8月

大分市教育委員会

目 次

はじめに

- 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての
点検及び評価の実施について・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 報告書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第 I 章 教育委員会の点検・評価

- 1 教育委員会の活動及び運営状況
 - (1) 教育委員会委員・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (2) 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・ 4
 - (3) 教育委員会会議での審議状況・・・・・・・・ 4
 - (4) その他活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果
 - 重要施策の体系・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2
 - (1) 豊かな人間性の創造
 - ① 幼児期における教育の充実・・・・・・・・ 1 3
 - ② 学校教育の充実・・・・・・・・・・・・・・ 1 5
 - ③ 社会教育の推進と生涯学習の振興・・・・ 1 9
 - ④ 青少年の健全育成・・・・・・・・・・・・・・ 2 1
 - (2) 人権を尊重する社会づくりの推進・・・・ 2 3
 - (3) 個性豊かな文化の創造と発信・・・・・・ 2 5
 - (4) スポーツ・レクリエーションの振興・・・・ 2 8
 - (5) 本市教育を推進する教育委員会の充実・・・・ 3 0

第 II 章 学識経験者による意見

- | | | |
|--------|------------------|-----|
| 金子 進之助 | 別府大学短期大学部学長 | 3 1 |
| 村嶋 幸代 | 大分県立看護科学大学学長 | 3 2 |
| 山崎 清男 | 国立大学法人大分大学理事・副学長 | 3 3 |

はじめに

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正がなされ（平成20年4月施行）、各教育委員会において、法の規定に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

大分市教育委員会では、平成20年5月に本市教育行政の方向や施策を明らかにする「大分市教育ビジョン」を策定し、学校、家庭、地域社会が連携し、一体となった教育の推進を図っています。

こうした取組の実施に当たっては、市民の皆様にも、その進捗状況を公表する中で、各々の施策が確実に実施されているか、どのような成果があるかなどを点検・評価することにより、教育行政の改善を図るとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することが重要であると考えています。

そこで、本市教育委員会では、「大分市教育ビジョン」の各施策の取組状況に関する点検・評価をもって、「教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価」とし、ここに報告書をまとめました。

なお、平成24年3月には、本ビジョンの中間年度である平成23年度までの事業の進捗状況、国や県の動向、社会情勢を踏まえたうえで、基本計画の見直しを行い、第Ⅱ期基本計画を策定いたしました。

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施について

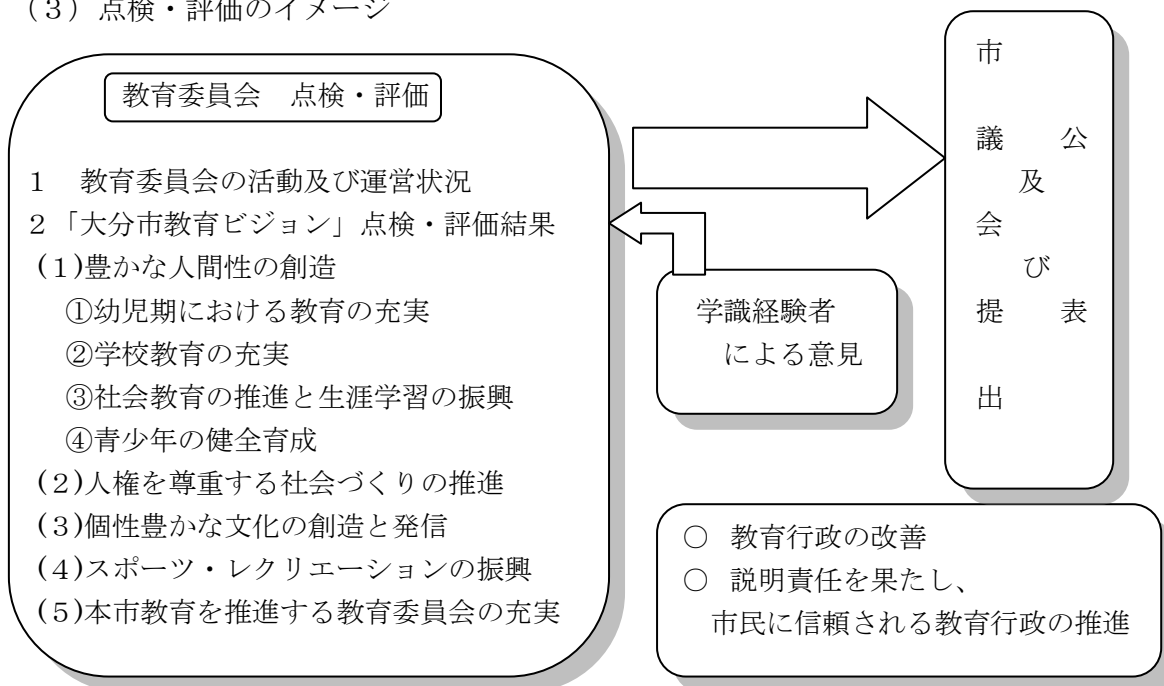
(1) 目的

- ① 大分市教育委員会が行う教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を実施することにより、教育行政の改善を図る。
- ② 点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを大分市議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

(2) 実施方法

- ① 点検・評価は、教育委員会の活動及び運営状況並びに「大分市教育ビジョン」に示す施策を対象とする。
- ② 点検・評価を行うに当たり、客観性及び透明性を高めるため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。
- ③ 教育委員会は、点検・評価の結果を取りまとめた報告書を作成し、大分市議会に提出するものとする。また報告書は公表する。

(3) 点検・評価のイメージ



2 報告書の見方

本報告書は、次の2つの内容（第Ⅰ章・第Ⅱ章）から構成しています。

第Ⅰ章 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動及び運営状況

教育委員会会議の開催状況、教育委員会会議での審議状況、その他活動状況等について記載しています。

2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

重点施策について、以下の項目立てから点検及び評価をしています。

①目標

②取組の進捗状況

「重点施策」の実現に向けて展開している「具体的な施策」について、「23年度の進捗状況」を説明するとともに、4段階評価を行っています。

<評価基準>

- A・・・23年度指標を上回っている
- B・・・23年度指標はやや下回っているが、ほぼ達成している
- C・・・23年度指標を下回っている
- D・・・23年度指標を下回っており、施策の見直しを行った

③平成23年度の成果や課題

成果を●で、課題を▲で表記しています。

第Ⅱ章 学識経験者による意見

点検・評価の客観性及び透明性を高めるとともに、知見を活用するため、教育に関し学識経験を有する方の意見等を聴取しました。

ご意見等をいただいた方々は、次のとおりです。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属 等
金子 進之助	別府大学短期大学部学長
村嶋 幸代	大分県立看護科学大学学長
山崎 清男	国立大学法人大分大学理事・副学長

参考 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

※ 本市教育委員会では、「大分市教育ビジョン」の年度ごとの進捗状況の評価も兼ねて、毎年度、本報告書を作成しております。

第 I 章 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動及び運営状況

1 教育委員会の活動及び運営状況

本市教育委員会は、策定した「大分市教育ビジョン」の基本理念の実現に向け、明日の大分を担う人材育成と郷土の豊かな伝統・文化を推進し、本市教育の振興に努めています。

各教育委員については、毎月の定例会議や臨時会議のほか、先進地視察や事務局と連携しながら最新の教育情報等に関する研修会への参加、学習会の開催、学校訪問、施設の視察、さらに校長との教育懇談会を開催するなどして自己研修・情報収集を行う中で、幅広い視点からの議論並びに積極的な活動を次のとおり行ってきました。

(1) 教育委員会委員

(H24.3.31 現在)

職名	氏名	就任年月日	委員現任期
委員長	高橋 英子	H19. 5. 8	H22. 6.28～H26. 6.27
委員長職務代理者	角山 光邦	H19.12.17	H21. 7. 8～H25. 7. 7
委員	小林 達也	H20. 3.26	H20. 7. 9～H24. 7. 8
委員	大久保 真理子	H23. 5.14	H23. 5.14～H27. 5.13
教育長	足立 一馬	H19. 5.14	H23. 5.14～H27. 5.13

(2) 教育委員会会議の開催状況

原則として毎月1回の「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催します。

平成23年度は、合計で21回開催しました。

- ① 教育委員会定例会議・・・12回
- ② 教育委員会臨時会議・・・9回

(3) 教育委員会会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条及び「大分市教育委員会所管事務委任規則」の規定に基づき、平成23年度は合計で82件について審議を行いました。

- ① 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・・・・・・ 7件
- ② 事務局職員及び教職員の人事・・・・・・・・・・・・・・・・ 13件
- ③ 教育委員会規則の制定又は改廃・・・・・・・・・・・・・・・・ 20件
- ④ 教科用図書の採択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件

- ⑤ 奨学生の選定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3件
- ⑥ 法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱・・・・・・ 16件
- ⑦ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価・・・・ 1件
- ⑧ 予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見申出・・・・ 19件
- ⑨ その他教育に係る事務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2件

平成23年度教育委員会審議案件等一覧(分類欄は、上記の分類によるものです。)

番号	件名	提出日	分類
1	県費負担教職員の処分について	4月8日	②
2	教育委員会職員の人事異動について	4月28日	②
3	大分市体育指導委員の委嘱について	4月28日	⑥
4	大分市学校医等公務災害補償認定委員会委員の委嘱及び任命について	4月28日	⑥
5	大分市美術館協議会委員の委嘱について	4月28日	⑥
6	大分市教育委員会教育長候補者の選任について	5月16日	②
7	大分市教育委員会教育長の任命について	5月16日	②
8	平成23年度大分市奨学生の決定について	5月23日	⑤
9	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱及び任命について	5月23日	⑥
10	大分市社会教育委員の委嘱及び任命について	5月23日	⑥
11	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	5月23日	⑥
12	平成23年度6月補正予算について	6月23日	⑧
13	大分市教育委員会教育長の退職手当の額について	6月23日	⑧
14	平成22年度補正予算(平成23年3月31日付市長専決処分)について	6月23日	⑧
15	平成23年度行政評価・実施計画について	6月23日	①
16	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱について	6月23日	⑥
17	大分市体育指導委員の委嘱について	6月23日	⑥
18	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	6月23日	⑥
19	大分市民図書館協議会委員の委嘱及び任命について	6月23日	⑥
20	大分市立南大分小学校給食調理場厨房備品の購入について	7月29日	⑧
21	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	7月29日	⑥
22	大分市公民館運営審議会委員の委嘱について	7月29日	⑥
23	大分市体育指導委員の委嘱について	7月29日	⑥
24	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	8月8日	⑦
25	平成23年度使用教科用図書採択について	8月8日	④
26	平成23年度緊急採用奨学生の決定について	8月24日	⑤
27	平成22年度決算について	8月24日	⑧
28	大分市立幼稚園条例の一部改正について	8月24日	⑧

番号	件名	提出日	分類
29	大分市スポーツ振興審議会条例の全部改正について	8月24日	⑧
30	特別職の職員で非常勤のもの報酬並びに費用弁償に関する条例の一部改正について	8月24日	⑧
31	公有財産の所管換等について	8月24日	⑨
32	大分市教育委員会所管事務委任規則の一部改正について	9月22日	③
33	大分市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	9月22日	③
34	大分市スポーツ振興審議会条例施行規則の全部改正について	9月22日	③
35	大分市体育指導委員に関する規則の全部改正について	9月22日	③
36	大分市立幼稚園規則の一部改正について	9月22日	③
37	県費負担教職員の処分の内申について	9月22日	②
38	県費負担教職員の処分について	9月22日	②
39	南大分体育館長の解職並びに任命について	9月22日	②
40	大分市公民館運営審議会委員の委嘱について	10月13日	⑥
41	大分市海部古墳資料館に係る指定管理予定者の決定について	11月1日	⑧
42	大分市立中学校設置条例の一部改正について	11月21日	⑧
43	平成23年度12月補正予算について	11月25日	⑧
44	平成24年度当初予算要求について	11月25日	⑧
45	平成24年度大分市立学校の休校について	11月25日	①
46	平成23年度県費負担教職員の人事評価について	11月25日	②
47	大分市立学校職員の給与に関する条例等の一部改正について	11月25日	⑧
48	大分市美術館美術品の購入について	11月25日	⑧
49	平成24年3月末教職員定期異動方針について	12月14日	①
50	義務教育等教員特別手当の支給に関する規則の一部改正について	12月16日	③
51	大分市立学校管理規則の一部改正について	12月16日	③
52	大分市学校支援センター管理規則の一部改正について	12月16日	③
53	大分市立学校職員の給与の支給等に関する規則の一部改正について	1月27日	③
54	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	1月27日	⑥
55	平成23年度3月補正予算について	2月29日	⑧
56	平成24年度当初予算について	2月29日	⑧
57	大分市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	2月29日	③
58	大分市立学校職員の給与の支給等に関する規則の一部改正について	2月29日	③
59	大分市立学校職員の住居手当の支給等に関する規則の一部改正について	2月29日	③
60	大分市立学校職員の通勤手当の支給等に関する規則の一部改正について	2月29日	③
61	南大分体育館管理規則の一部改正について	2月29日	③

番号	件名	提出日	分類
62	大分市学校給食共同調理場管理規則の一部改正について	2月29日	③
63	大分市民図書館管理規則の一部改正について	2月29日	③
64	大分市歴史資料館管理規則の一部改正について	2月29日	③
65	大分市立学校職員の給与に関する条例の一部改正について	2月29日	⑧
66	大分市教育ビジョン第Ⅱ期基本計画について	2月29日	①
67	大分市立幼稚園条例の一部改正について	2月29日	⑧
68	「平成24年度大分市学校教育指導方針」について	2月29日	①
69	大分市立学校管理規則の一部改正について	2月29日	③
70	大分市公民館条例等の一部改正について	2月29日	⑧
71	平成24年度大石奨学生及び大分市高等学校修学支援奨学生の決定について	2月29日	⑤
72	県費負担教職員の処分の内申について	2月29日	②
73	県費負担教職員の人事異動の内申について	3月12日	②
74	大分市立うすき少年自然の家の今後の方針について	3月12日	①
75	教育委員会職員の人事異動について	3月23日	②
76	南大分体育館長の任命について	3月23日	②
77	大分市公民館長及び大分市民図書館長の任命について	3月23日	②
78	大分市教育委員会所管事務委任規則の一部改正について	3月23日	③
79	大分市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	3月23日	③
80	大分市社会教育委員の委嘱について	3月23日	⑥
81	公有財産の所管換等について	3月23日	⑨
82	大分市立小中学校適正配置基本計画の策定について	3月28日	①

※審議案件の他、協議事項及び報告事項についても取り扱いました。

協議事項・・・1件

件 名	件 数
教育委員会委員長の選任について	1件

報告事項・・・57件

報 告 内 容	件 数
市議会関係について	15件
幼稚園教育について	4件
文化財の指定・答申について	2件
小中学校適正配置計画について	9件
教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	2件
その他	25件

(4) その他活動状況

教育委員は、教育委員会会議に出席するほか、協議等の開催、研修会の参加、学校訪問、教育施設の視察、行事等への参加等の活動を行っています。

① 委員協議等・・・6回

概 要	時 期
小中学校適正配置基本計画について(5回)	12月～3月
教育委員会所管事務委任規則の一部改正について	2月

② 研修会等・・・12回

概 要	時 期
第1回学習会(教育事務所について)	5月
平成23年度大分県市町村教育委員会連合会研修会(県教委と共催)	6月
第2回学習会(教科用図書の選定について)	6月
第3回学習会(教科用図書の選定について)	7月
平成23年度九州地区市町村教育委員会連合会研修大会	8月
第4回～第10回学習会(小中学校適正配置基本計画について)	11月～3月

③ 懇談会等・・・5回

		概 要	時 期
市長との意見交換会	目的	市長との意見交換を行い、市長部局との一層の連携を図る	6月
	内容	テーマは、「小中一貫教育の推進と確かな学力の定着・向上並びに体力の向上について」とし、お互いが率直な意見交換を行い、より一層の意志疎通が図られた。	
教育懇談会	目的	学校長等との意見交換を行い、教育現場の現状や課題等を把握する	第1回 7月 第2回 10月 第3回 11月 第4回 1月
	内容	第1回 テーマは、「新任校長として」とし、新任校長と意見交換を行った。 第2回 テーマは、「学力向上について」とし、小学校長10名と学校現場の状況について意見交換を行った。 第3回 テーマは、「学力向上について」とし、中学校長8名と学校現場の状況について意見交換を行った。 第4回 テーマは、「幼小連携について」とし、幼稚園専任園長6名と幼稚園現場の状況について意見交換を行った。	

<市長との懇談会の様子>



<教育懇談会の様子>



④ 学校訪問・・・5校(園)

		概 要	時 期
戸次小学校	目的	基礎学力向上研究推進校としての取組、学校研究、特色ある学校づくり、地域との連携、特別支援教育等、現状等の把握	11月
	内容	校長との意見交換、授業参観等を行い、戸次小学校の教育現場の状況や課題を把握することができた。	
竹中小学校	目的	小規模校、連携型小中一貫教育モデル校としての取組、学校研究、特色ある学校づくり、地域との連携、特別支援教育等、現状等の把握	11月
	内容	校長との意見交換、授業参観、給食の試食等を行い、竹中小学校の教育現場の状況や課題を把握することができた。	
のつはるこども園	目的	幼保連携施設であるのつはるこども園の取組・現状等の把握	1月
	内容	園長との意見交換や、園内視察を通して、幼保連携施設としての特色や、今後の幼保の連携のあり方などの課題を把握することができた。	
宗方小学校	目的	基礎学力向上研究推進校としての取組、学校研究、特色ある学校づくり、地域との連携、特別支援教育等、現状等の把握	1月
	内容	校長との意見交換、授業参観、給食の試食等を行い、宗方小学校の教育現場の状況や課題を把握することができた。	

王子中学校	目的	外国籍の子どもへの教育、学校研究、特色ある学校づくり、地域との連携、特別支援教育等、教育現場の状況や課題の把握	1月
	内容	校長との意見交換や授業参観等を行い、王子中学校の教育現場の状況や課題を把握することができた。	

<園内を視察する教育委員の様子(のつはるこども園)> <授業参観をする教育委員の様子(宗方小)>



⑤ 所管施設等の視察・・・4施設

概 要		時 期	
河原内陶芸楽習館 二豊学園 古宮古墳	目的	教育施設の実態・実情の把握	11月
	内容	河原内楽習館の運営方針や利用状況等について確認 二豊学園の基本理念や指導状況、児童の活動内容等について確認 古宮古墳の状況について確認	
美術館	目的	教育施設の実態・実情の把握	1月
	内容	美術館の運営状況について確認	

<河原内陶芸楽習館の視察>



<古宮古墳の視察>



⑥ 各種会議・行事等・・・22回

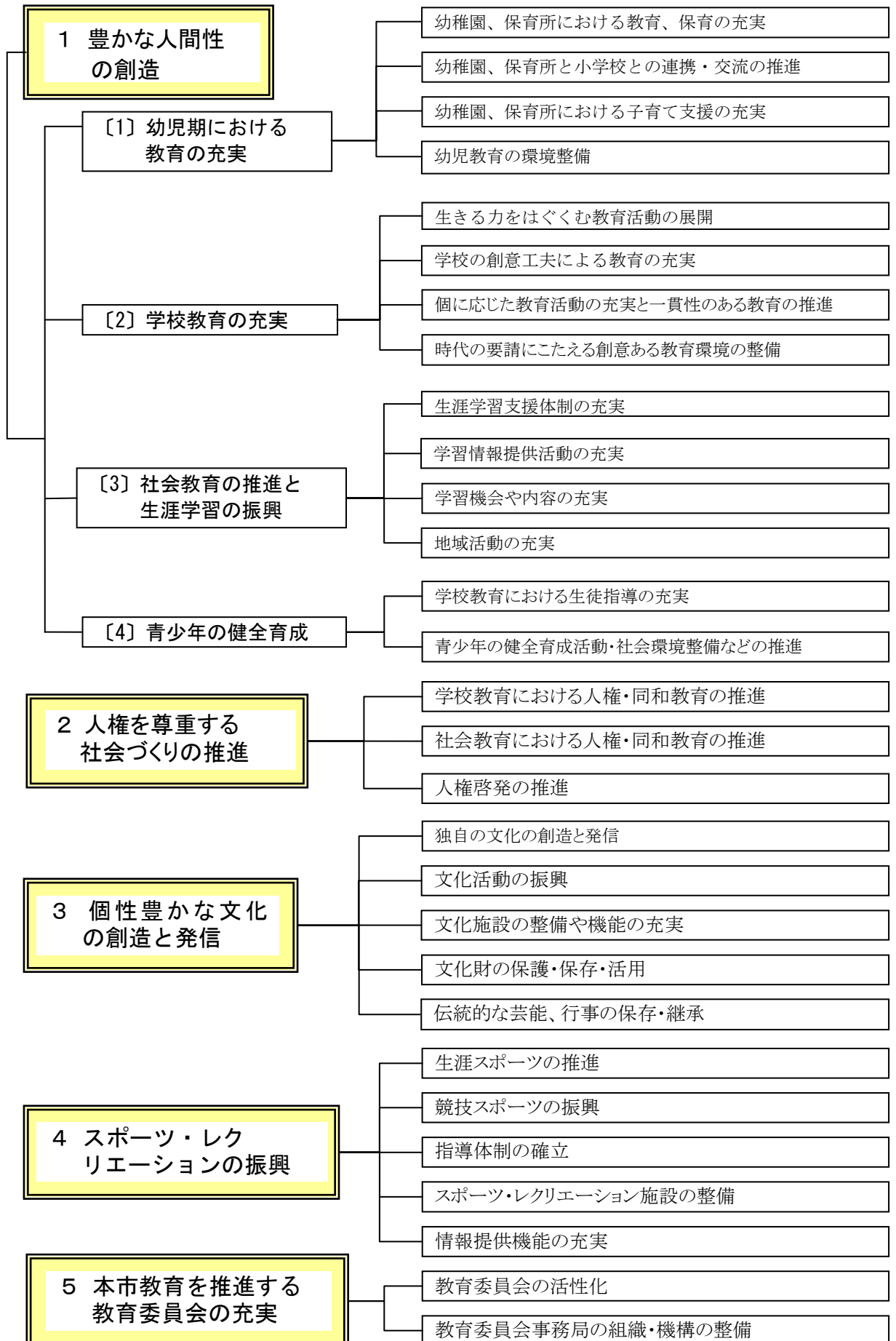
(教育委員の活動について広く市民に理解していただけるよう、行事への積極的な参加を行いました)

概 要	時 期
小学校入学式、中学校入学式、幼稚園入園式	4月
大分県市町村教育委員会連合会総会	6月
第61回“社会を明るくする運動”大分市推進大会	6月
大分県交通安全推進協議会委員会	6月
第49回大分県中学校総合体育大会	7月

第28回ムッチちゃん平和祭	8月
第11回九州地区健康教育研究大会	8月
九州地区市町村教育委員会連合会研修大会	8月
陶芸祭	10月
大分市誕生百年記念式典	10月
第30回特別展「大分の君－飛鳥と豊後をつないだ人」開会式	10月
「おおいた教育の日」推進大会	11月
文化の日表彰式	11月
大分県学校給食優良学校等表彰選考委員会	12月
大分市成人記念集会	1月
大分市家庭の日推進大会	2月
小学校卒業式、中学校卒業式、幼稚園卒園式、大分県スポーツ振興審議会	3月

2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

重点施策の体系（構成図）



重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ① 幼児期における教育の充実

1. 目標

○人間形成の基礎を築く幼児期の重要性、本市の幼児教育の実情などを踏まえ、義務教育への円滑な接続を図る保育の充実、子育て支援策など、幼児教育環境の整備に努める。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度 状況	23年度 実績	23年度 指標	23年度の進捗状況	評価
①幼稚園、保育所における教育、保育の充実						
「大分市幼稚園教育スタンダード」の策定	策定の取組	策定準備	実施	実施	各市立幼稚園において「大分市立幼稚園保育の手引き」の「幼稚園教育の充実のための具体策」等を参考にしながら、園運営、教育内容の改善と充実を図る取組を進めている。	A
幼稚園教諭と保育士などの合同研修機会の提供	研修会の開設講座数	2講座	9講座	5講座	保育所の運営に生かすことができるような内容の研修の機会を提供したことにより、初めて保育士2名が参加し、幼稚園教諭との合同研修が実施できた。	A
市立幼稚園への「専任園長制」の導入	専任園長制導入園数	0園	5園	3園以上	専任園長が小学校長に働きかけ、校区内の保育所との連携を図る連絡協議会を立ち上げるなど、いわゆる小1プロブレムの課題に主体的に対応している。	A
市立幼稚園における学校(園)評価の取組の推進	実施園数の割合	内部評価100%	学校関係者評価100%	学校関係者評価100%	評価委員からの意見を参考に、幼稚園の情報発信をより積極的に行うようになるなどの改善が見られる。	A
市立幼稚園における特色ある園づくりの推進	地域との交流活動を取り入れた園の割合	66%	100%	86%	飼育・栽培活動や、茶道教室、昔の遊びなどの活動を取り入れるなど、全園において、地域の教育環境を生かした特色ある教育活動を実施している。	A
<p>●本市が主催する幼稚園教諭の資質向上を図るための研修会に、保育所の保育士も日常実践の中で生かせるような内容の講座(絵本の読み聞かせ、特別支援教育等)を提供したことにより、保育士の参加があり、幼児教育施設間の情報交換や相互理解が深められるような機会となった(平成23年度私立幼稚園等からの参加者合計37名)。</p> <p>●豊かな教育環境創造事業において、年間の実施計画をもとに、計画的、系統的な体験活動(地域の方を講師にサツマイモの苗植え、お世話、収穫、おもいパーティー、地域の方へのお礼等)に取り組むことができた。</p>						
②幼稚園、保育所と小学校との連携・交流の推進						
幼稚園・保育所・小学校連絡協議会の設置	設置に向けた取組	検討	設置	設置	23年10月に、「大分市幼保小連携推進会議」を設置した。その後、継続して幼児教育施設間や小学校との連携の在り方等についての協議を進めている。	A
<p>●23年10月に、市立・私立の幼稚園・保育所の施設長代表、教員・保育士、大学教授、保護者代表等の16名で構成された「大分市幼保小連携推進会議」を設置した。本会議では、本市の小1プロブレムの状況や幼保小連携の課題等について共通理解を図ったうえで、就学前の保護者や幼児に対して小学校生活の様子等を知らせるパンフレットの作成、幼保小の円滑な接続に向けた具体的な事例等を含めた提言等について、全市的な視野に立った協議を進めている。</p> <p>●地域等の実情に応じた幼保小連絡会議を立ち上げ、その会議を通して、子どもに関する情報の共有、子ども同士の交流、教職員の交流等の取組を実施している校区や地区が増えてきている。</p>						

具体的な施策	指標の説明	19年度 状況	23年度 実績	23年度 指標	23年度の進捗状況	評価
③幼稚園、保育所における子育て支援の充実						
市立幼稚園における「預かり保育」の充実	「預かり保育」実施回数・時間	週1回	週1回	週2回	平成22年度は週2回実施した園が2園であったが、平成23年度は、3園と増えてきているが、全園実施までには至っていない。	C
私立幼稚園の預かり保育利用者に対する支援の充実	補助利用者数 (1期当たり平均)	367人	478人	380人	23年度指標を上回る利用者があり、保護者の経済的負担の軽減が図られた。	A
市立幼稚園「子育て支援事業」の推進	各園の参加者総数	10,722人	21,371人	11,000人	各園での取組内容が充実し、回数も合計697回実施し、参加者も23年度指標を大きく上回った。	A
<p>●市立幼稚園の子育て支援事業では、全園で前年度比1.2倍の計697回の事業を実施した。保護者の育児に対する悩み等へ対応していくことから、子育て相談会を実施するなど、内容も充実させてきており、参加者も増えてきている。</p> <p>▲市立幼稚園における預かり保育については、幼保連携施設である「のつはるこども園」の野津原幼稚園が週2回2時間程度実施しているほか、2園で週2回1時間程度実施している。他の園は、週1回1時間程度実施している。また、地域の実態や子どもの心身の負担、園の実情にも配慮する中で、保護者の個別の要請に応じて、全園において随時、預かり保育を実施している。しかしながら、全園において週2回の全員を対象とした預かり保育を実施するまでには至っていない。</p>						
④幼児教育の環境整備						
新たな幼児教育振興計画の策定と実施 (前期=21~25年度、 後期=26~30年度)	策定と実施	策定準備	前期実施	前期実施	各幼児教育施設を対象に22年度における振興計画の具体的方策の取組状況調査を実施し、21年度との比較を行った。	A
<p>●21年度と22年度との具体的方策の取組状況調査結果の比較では、「幼児と接する体験機会の提供」、「地域で支える子育て支援の推進」、「親育ち・子育ての場や機会の提供」の項目において「図られている」の割合が増えており、家庭や地域社会への教育力向上への支援が充実してきている。</p> <p>●国の「子ども・子育て新システム」の動向を注視するとともに、システムの概要や総合こども園に関する事など、今後の方向性について、子育て支援課との情報の共有に努めた。</p> <p>●「のつはるこども園」における幼保連携の取組について、教職員や保護者のアンケート等をもとに、その成果や課題について検証を行い、次年度「幼保連携の取組を地域へ積極的に発信すること」、「幼保混合のグループ編制による保育の導入」等の取組を実施することとした。</p>						

3. 参考

<p>【市立幼稚園の学校関係者評価における評価委員の声から】</p> <p>◆子育て支援活動については、親同士が知り合える機会を提供しているという点から、地域の中では、その実施が期待されており、より充実させていくべきである。</p> <p>◆園での様子を保護者等へ積極的に発信していくことが大切ではないか。</p> <p>◆地域とのつながりを持ち、多くの体験活動を実施していることがすばらしい。これからも地域人材を生かした体験活動を実践して欲しい。</p> <p>【市立幼稚園における「地域との交流活動」の取組】</p> <p>◆地域の方がカブトムシの幼虫を持ってきてくれたことから、地域の方のアドバイスをもち、成虫になるまで育てて自然にかえすことができた。また、次年度入園してくる園児のために卵を育て、お世話を託すなど、年間を通した活動に取り組むことができた。この活動が、お話し作りへと発展し、劇にして発表できた。</p> <p>◆地域の方から「お茶の作法」を教えてもらい、作法だけでなく、順番を待つことや相手を意識する心、ゆっくり落ち着いた時間を楽しむことなどを身につけることができた。</p>

重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 (2) 学校教育の充実

1. 目標

- 学校教育においては、確かな学力の向上、心の教育の充実、健やかな体の育成に取り組み、自ら学び自ら考える力などの生きる力を育成する教育の創造に努めるとともに、学校の教育力(「学校力」)、教師の力量(「教師力」)を高め、子どもたちの「人間力」の育成をめざす。
- 家庭、地域社会および関係機関との連携の強化を図りながら、開かれた学校、信頼される学校づくりに努めるとともに、時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備充実に努める。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
①生きる力をはぐくむ教育活動の展開						
大分っ子基礎学力アップ推進事業の実施	指導主事の学校要請訪問	57%	100%	80%	基礎学力向上研究推進校の研究、自主公開研究発表及び校内研究などの機会を通じ、全校に指導主事を派遣した。	A
	標準学力検査における各教科の到達指標(全国平均を100として)	101	101.4	104	学力検査の結果分析及び改善策、学力向上会議の開催、研究推進校の成果の還元等を行った結果、国語科を除き、全国平均を上回ったものの、指標達成には至らなかった。	C
国際理解教育の推進と充実	小学校5・6年へのALT等の派遣	年間2回	月2回	月1回	ALTを増員し、小学校への派遣回数を増やすことができた。	A
情報教育の推進と充実	コンピュータの整備	検討	特別教室6台	特別教室6台	情報教育に係る研修を通じ、小中学校の特別教室に配置しているパソコンの活用を図った。	A
環境教育の推進と充実	環境教育研修会の受講者割合	20%	66.6%	40%	校長会等を通じ、市教委主催の環境教育に係る研修を紹介することにより、教員の参加・受講を促進した。	A
読書活動の充実	全校読書タイム実施校数	82%	100%	100%	図書館担当者等を対象に読書活動推進の方法や研究推進校の実践などについての研修を実施することにより、学校の読書活動を推進した。	A
	児童一人当たりの年間貸出冊数	48冊	74.2冊	55冊	学校図書館支援員を配置し、図書館担当者との連携の下、読書環境の整備などを進めたことにより、児童の読書意欲が向上した。	A
	生徒一人当たりの年間貸出冊数	2冊	7.5冊	9冊	学校図書館支援員を配置し、図書館担当者との連携の下、読書環境の整備などを進めたことにより、生徒の読書意欲が向上し貸出し冊数も年々増加している。	B

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
進路指導の充実	小・中学校における職場見学・体験実施校の割合	34%	100%	50%	キャリア教育を推進することにより、全小中学校において職場体験活動や職場見学を実施し、勤労観、職業観の育成を図った。	A
	キャリア教育コーディネーターの中学校への派遣	74%	78%	100%	中学校での職業講話を実施する際に、商工労政課等と連携し、ヤングキャリアアドバイザー等の講師を派遣することにより、職業意識の向上を図った。	B
子どもの健康や体力の増進	新体力テストで全国平均以上の種目の割合	※9% (4.2%)	13.2%	30%	体育主任会や体力向上指導者研修を開催し、新体力テストの正確な実施方法や授業改善について研修を行った。	C
喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実	「薬物乱用防止教室」の開催	18校	74校	全小中学校	保健所や市薬剤師会などの関係機関と連携のもと、「薬物乱用防止教室」に関する情報を提供するとともに研修会において教室の重要性を再認識させることにより開催校は増加し、「薬物乱用防止教育の充実」は図られている。	B
食に関する指導の充実	地産地消の取組〔学校給食の地元産食材の使用比率〕	41%	43.8%	43%	地産地消推進会議を毎月開催し、旬の地元産食材の計画的使用を図っている。その結果、使用比率は目標に近づいており、学校給食を生きた教材とした「食に関する指導の充実」は図られている。	A
<p>●学力検査の結果分析及び改善策等指導資料の作成・ホームページへの掲載、研究推進校の成果の還元及び校内研究等への指導主事の積極的な派遣などにより、教員の授業力の向上、指導方法の工夫改善が図られつつあるとともに、標準学力検査において実施教科12教科中、9教科が全国平均を上回った。</p> <p>●新体力テストにおいて全国平均には及ばなかったものの、83項目が22年度より平均が上昇した。</p> <p>▲自校の体力実態を分析し、独自の「体力向上プラン」を作成し、体育・保健体育の授業はもとより学校教育全体で取り組む必要がある。</p> <p>※県において、平均値の比較をT-スコアを用いていることから、本市においても、T-スコアを用いることとした。 【T-スコア】とは、通常「偏差値」と呼ばれているものである。</p> <p>●東日本大震災を受け、市内の各学校では、平成23年度中に学校や地域の実情に応じ、津波等を想定した避難訓練を実施した。また、同年度中に本市教育委員会において「大分市学校災害対策マニュアル(暫定版)」を作成した。 平成24年度から、各学校では、そのマニュアルをもとに学校や地域の実情に即した学校独自の「防災マニュアル」を作成し直し、総合的な防災体制の整備や地域と連携した避難訓練、子どもの発達の段階に応じた防災教育などを実施している。</p>						
②学校の創意工夫による教育の充実						
特色ある学校づくり推進事業の実施	活動へのボランティア参加人数	700人	/	800人	平成21年度末をもって事業終了	/
	外部講師等の参加人数	370人	/	450人	平成21年度末をもって事業終了	/

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
各種教育活動における地域の人材活用	学校教育支援員の活用分野数	8分野	18分野	13分野	各学校からの推薦等により、学校教育支援バンクの登録分野や人数の充実を図った結果、18分野にのべ100名の登録となった。	A
地域に開かれた学校づくり、信頼される学校づくり	学校評議員研修会の開催日数	1回	2回	2回	学校評議員を対象に研修会を実施し、学校評議員の制度や役割について理解を図った。	A
	学校ホームページの更新	学期1回	月1.5回	月1回	学校ホームページ担当教諭等を対象とした研修会や校長会等での呼びかけにより、各学校の更新回数は増えている。	A
<p>●「生き生き学習サポート事業」の活用により、地域と一体となった学習活動が推進され、外部講師による専門的な指導を通し、子どもの技術・技能や学習意欲の向上が図られた。</p> <p>●各学校の校長、教頭、ホームページ担当教諭等を中心にホームページを通した情報発信に努めたことにより、各学校の更新回数が増加した。今後とも、開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを一層推進するうえから、ホームページの更新回数の増加や内容を充実させたい。</p>						

③個に応じた教育活動の充実と一貫性のある教育の推進						
特別支援教育の充実	巡回教育相談の実施(年間)	5回	6回	7回	市報や市のホームページで広く呼びかけ、保護者を対象とした巡回教育相談を6回実施した。	B
小中学校の一貫性のある教育の推進	小中一貫教育校の設置	1校	7中学校区	4校	市内6中学校区(18校)を連携型小中一貫教育推進校に指定し、連携型の小中一貫教育の研究を推進した。	A
<p>●賀来小中学校に加え、市内6中学校区(18校)を連携型小中一貫教育モデル校に指定し、研究成果を全市に還元した。また、市内全中学校区においても、合同研修会や情報交換会の実施等を通し、学校や地域の実情に応じた小中一貫教育の取組を推進した。</p>						

④時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備						
学校施設環境の整備充実	学校図書館の空調設備設置校の割合	16%	89%	50%	年次計画により、小学校17校に設置し89%となった。	A
	教室の照明設備の改修実施数	年10教室	年9教室	年10教室	教室内の環境の改善を図るため、小学校6教室、中学校3教室、計9教室の老朽化した照明器具の取替え・増灯を実施し、現在使用している教室については完了した。	A
	トイレの全面改修実施校数	年1校	年2校	年1校	衛生に対する意識及び生活環境の改善を図るため小・中学校各1校で実施した。	A
	特別教室の全面改修実施数	年2教室	年5教室	年2教室	小学校の家庭科室2教室 中学校の家庭科各1教室と小・中学校の理科室各1教室の計5教室を改修した。	A
	プールの改築実施校数	年2校	年1校	年2校	老朽化した中学校のプールを1校改築した。	C

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
学校施設環境の整備充実	外壁及び屋上大規模改修実施校数	年2校	年5校	年2校	緊急性の高い校舎の外壁及び屋上大規模改修を小学校3校、中学校2校の計5校実施した。	A
	環境に配慮した施設整備実施校の割合	14%	22%	19%	校舎の増改築に伴い、中水利用・人感センサー付照明設備等、省エネ・省資源型の施設整備を3校実施した。	A
学校施設の耐震化の推進	耐震化率	61%	80%	76%	耐震診断結果を基に作成した耐震化計画により15棟の耐震化工事を実施し、80%となった。	A
隣接校選択制の実施	隣接校選択制の実施状況	一部地域での試行	全市域で実施	全市域で実施	手続き説明会を学校から支所や公民館等に変更し、開催時間も夜だけでなく午前中にも開催するなど、利用者に配慮した対応を行った。	A
通学区域制度の弾力的運用	弾力化の取組	見直し・改善	見直し・改善	見直し・改善	保護者の実情に配慮した弾力的な運用に努めるとともに、東日本大震災等の緊急時にも柔軟に対応した。	A
市立小・中学校の適正配置	基準及び計画の策定	基準の検討	計画の策定	計画の策定	「大分市立小中学校適正配置計画検討委員会」からの報告をもとに、平成24年3月に「大分市立小中学校適正配置基本計画」を策定した。	A
教職員研修の充実	研修の精選と内容の充実(講座・日数)	108講座 308日	107講座 267日	104講座 305日	日数の精選に努めるとともに、教職員のニーズに応じた講座の開設、また、研修内容・方法等の工夫改善を行った。	A
子どもの読書活動の推進	学校図書館蔵書の充足率	95%	小126.1% 中131.8%	100%	学校図書館購入に係る予算化や適正な蔵書管理などにより、蔵書の充足率が100%を超えた。	A
奨学制度の充実	制度の見直し検討	検討	検討	見直し	平成22年度までに実施した償還期間及び開始時期の変更、贈与型の奨学資金の創設などの成果や課題について検討した。	B
<p>●市立小中学校の適正配置については、現在及び将来の子どもたちにとって、より豊かな教育環境を創造することを第一義として、教育委員会の基本的な考え方や方向性を示した「大分市立小中学校適正配置基本計画」を、平成24年3月に策定した。</p> <p>●学校図書購入に係る計画的な予算化や適正な蔵書管理などにより、蔵書の充足率が100%を満たした。今後は、一定の充足率を確保しつつ、新刊の購入や古書の廃棄等の入れ替えを計画的に進める予定である。</p>						

重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ③ 社会教育の推進と生涯学習の振興

1. 目標

- 市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな生活を送るため、その生涯にわたって、あらゆる機会あらゆる場所において学習することができるよう、幼児期から高齢期までの各期に応じた魅力ある学習の場の提供に努め、市民の学習活動を促進する。
- 自ら学び、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会の実現を目指す。
- 地域の学習拠点、家庭教育の支援拠点、学校・家庭及び地域社会の連携拠点として、公民館など社会教育施設の機能を充実し、魅力ある多様な事業展開を図る。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
①生涯学習支援体制の充実						
読書活動支援の取組	校区公民館への図書配送業務	構築	全校区館	全校区館	全校区公民館への図書配送業務を実施し、1,782人3,150冊の貸出利用があった。	A
<p>●新市民図書館の開館に向けた準備等にもない、2ヶ月間の貸出休止期間があったが校区公民館での図書配送は、22年度の2,972冊から3,150冊に増加した。貸出利用者も1,681人から1,782人に増加した。</p> <p>▲今後も市民に周知し、利用の増加を図るとともに「子どもの読書活動推進計画(第二次)」に基づき、保護者や子どもへの啓発活動を行い、様々な機会での読書活動を推進していく。</p>						
②学習情報提供活動の充実						
生涯学習に関する多様な学習情報の提供	「まなびのガイド」へのアクセス件数	51,079件	77,902件	55,000件	社会教育施設や地域の最新情報の提供、動画による配信の充実により、指標より大幅に増加している。	A
<p>●「まなびのガイド」のアクセス数は、市民に提供する情報の内容や動画配信コンテンツの充実により順調に伸びている。</p> <p>▲今後も更なるコンテンツの充実や情報の最新化を図るとともに、システムのリニューアルを行い、提供する学習情報内容等の充実を図る。</p>						
③学習機会や内容の充実						
家庭教育を支援するための取組	「家庭教育学級」の開設数	80学級	81学級	85学級	20年度は75学級、21年度は70学級、22年度は71学級と減少したため、地区公民館の協力のもと周知活動を強化したところ、23年度は81学級に増加し、活動内容も充実した。	C
	地区公民館で開催する集会「子育ての集い」への参加者数	1,314人	730人	1,350人	夏祭り等のイベント形式からネットワークづくりを中心とした情報交流形式に見直した公民館があり、参加人数が大幅に減少したが、多くの方々と知り合え、子育てに関する悩みの解決につながる充実した集いとなった。	C
	地区公民館で開催する「乳幼児家庭教育学級」への参加組数	301組	335組	350組	指標に15組足りなかったが、子どもの体験活動の場だけでなく、保護者同士のネットワークづくりや子育ての相談ができる場となり、大変好評であった。	C

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
家庭教育を支援するための取組	小学校就学前の子どもをもつ保護者が学ぶ「子育て講演会」の開設数	60小学校 6保育・幼稚園	60小学校 4保育・幼稚園	61小学校 9保育・幼稚園	小学校については、全60校で実施し、目標を達成した。(1校は休校中)保育園・幼稚園は開催規模を募ったが23年度は4回にとどまった。	C
	中学校にて思春期の子ども心理や保護者のあり方を学ぶ「思春期講演会」の開催校数	60%	100%	75%	すべての中学校で1年生の保護者を対象に実施することができた。	A
	「子育てサポーターリーダー」の養成地区数	4地区 公民館	12地区 公民館	8地区 公民館	養成した54人の「子育てサポーターリーダー」が12地区公民館エリアで公民館と連携しながら活動している。	A
	市民図書館が養成する「読み聞かせボランティア」の人数	50人	130人	70人	130人のボランティアを養成し、市民図書館内で活躍している。	A

●乳幼児家庭教育学級では、地域の家庭教育の拠点として同世代の交流を生み、地域の子育て支援者との出会いも創出できた。また、参加者が分担して学級の運営に携わる姿も見られ、受講生の子育て以外の学習の場にもなった。

●子育ての集いでは、子育て中の親と地域の子育て支援者との交流ができ、企画運営についても進んで参画し、実行委員として活躍する子育て支援者も見られた。

▲地区公民館で実施する「子育ての集い」「乳幼児家庭教育学級」「子育て講演会」について、指標に届かなかった。子育て中の市民のニーズや活動内容の見直しが必要である。

▲チラシやメディア等による広報活動を行っているが、もっと地域に密着したきめ細かい情報提供の方法を検討する必要がある。

④地域活動の充実

地域の子ども活動を支援する取組	地域子ども活動支援設置箇所数	47箇所	57箇所	55箇所	57小学校区において、地域の指導者による子どもの身近な場所での体験活動を実施できた。	A
「生涯学習指導者登録制度」の拡充	登録者数	278人	334人	320人	22年度より29名増え、334名の登録ができた。登録者のうち約7割の方々が地域で指導者として活躍している。	A

●地域の子ども活動を支援する取組については、「おおいたふれあい学びの広場推進事業」として地域の指導者の支援のもと、昔遊びや工作、読み聞かせ、料理、スポーツ等の体験活動を子どもたちに提供できた。また、10小学校区において地域住民が主体となって実行委員会を組織し、企画・運営することができた。今後は全小学校区での開催と地域住民が主体となった取組へと広げていく。

3. 参考

地域活動の充実「地域の子ども活動を支援する取組」
(平成23年度 おおいたふれあい学びの広場推進事業 ～参加者の声から～)

- ◆お年寄りから、昔の人が使っていた和紙のよさについて聞きました。やさしく一緒に七夕飾りをつくってくれてうれしかったです。とてもすごい飾りができました。
- ◆南大分スポーツパークでグランドゴルフをしました。最初は地域の人とうまく話せるか緊張したけど、一緒にゴルフをしながら楽しくおしゃべりができてよかったです。
- ◆虫追いまつりにはじめて参加しました。川沿いの道をたいまつを持って虫を追い払うのが面白かったです。たいまつが火がとつてもきれいでした。
- ◆おじいちゃん、おばあちゃんと先生たちとマリーゴールドを植えました。みんなで協力してやったので、あまりきつくなかったです。花が咲くのが楽しみです。
- ◆お昼ごはんについておもちと豚汁を食べておいしかったです。午後からの発表会で地域の人に発表をしました。まあまあ上手にできたと思います。
- ◆あぶり絵というのをした。紙にくだもの汁で字を書いて、火であぶったら字がでてきてびっくりした。昔の人はこんなふうに遊んでいたのかなと思った。

重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ④ 青少年の健全育成

1. 目標

○「青少年自らの力による成長」と「青少年の成長を支える大人の体制づくり」を2本柱として、学校、家庭、地域社会、職場が青少年の健全育成に向けてそれぞれの役割を果たし、豊かな人間性や社会性を身につけた、新しい時代を切り拓く青少年の健全育成に努める。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
①学校教育における生徒指導の充実						
大分市小中学校生徒指導連絡会	研修の実施内容等の充実(年4回)	現状分析	4回	見直し	内容の充実を図り、見直しを実施した。	A
大分市小中学校教育相談担当者連絡会	事例発表など内容の充実(開催回数)	4回	4回	5回	年4回の実施回数で対応した。	B
大分市いじめ・不登校等対策協議会	協議内容の充実(開催回数)	2回	3回	3回	指標どおりに実施した。	A
児童生徒のボランティア活動	活動への参加率	70.1%	89.8%	90%	ほぼ指標どおりの実績となった。	B
<p>●生徒指導連絡会について、22年度より従来の持ち方の見直しを進めるとともに、23年度には生徒指導担当者の行動マニュアル例を示すことで、組織的生徒指導の在り方をより具体的に提示するなど、その強化を図った。</p> <p>●大分市小中学校教育相談担当者連絡会について、年4回の実施回数の中でより充実した内容になるよう、あらかじめ各学校の取り組み内容を報告させ、参考となる取組を事例として発表させるなど工夫を図り、実施した。</p> <p>●大分市いじめ・不登校等対策協議会について、内容の充実を図るとともに予定通りの開催回数を実施した。</p> <p>●児童生徒のボランティア活動について、目標の参加率ををほぼ達成した。</p>						
②青少年の健全育成活動・社会環境整備などの推進						
大分市「おじの会」育成サポート事業	父親部の設立率	80%	/	100%	22年度末をもって、指標が達成されたため、この事業は終了した。	/
大分市「家庭の日」推進大会	参加者数	388人	430人	500人	「家庭の日」の趣旨の理解と定着を図るため、大分市PTA連合会との共催で開催した。	B
大分市こどもの安全見守りボランティア推進事業	ボランティア数	25,417人	28,560人	30,000人	学校が中心となり、PTAや地域関係者に登録者の拡大を呼びかけた。	B

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
少年自然の家主催事業	定員に対する参加率	95%	80%	100%	市内全小中学校への周知と、市報やマスコミを通じて市民への広報に努めるとともに、事業内容の見直しと充実を図った。	C
<p>●大分市「家庭の日」推進大会については、指標を越えることはできなかったが、近年、父親の子育て参加と父親部の設立を目的に開催し、父親部も全小中学校に設立されるなど、所期の目的を達成したため23年度をもって本事業は終了する。</p> <p>▲大分市こどもの安全見守りボランティア推進事業については、登録者数は年々増加し、活動も定着してきているが、子どもの安全確保の観点から、今後も指標の達成に向けて取組を継続する必要がある。</p> <p>▲少年自然の家主催事業について、昨年度実績よりも減少した。特に冬場の主催事業については、厳冬の影響とインフルエンザ等感染症の流行が大きな原因ととらえている。また、例年参加者の多い夏場の事業についても参加者が少なかったが、開催時期が夏休み後半であったことから学校行事(除草活動)等と重なったことが原因ととらえている。今後ともより多くの市民が利用するように広報に努める。</p>						

3. 参考

平成23年度 大分市立うすき少年自然の家主催事業実績					
月日	名称	募集要件	応募状況	参加実績	備考
10/8(土)～ 10/9(日)	キッズアドベンチャー 国際交流とカヌーのつどい	小中学生(50名)	56名	51名	抽選による
11/12(土)～ 11/13(日)	うすきの海で遊びま専科	20家族	21家族	18家族	キャンセル理由 不明
12/3(土)～ 12/4(日)	手作りクリスマスのタベ	20家族	11家族	8家族	キャンセル理由 不明
1/21(土)～ 1/22(日)	たき火だ集まれ 親子ほくほくクッキング	20家族	18家族	15家族	主なキャンセル理由 インフルエンザ
2/25(土)～ 2/26(日)	ダンボールハウスに泊まろう	20家族	18家族	14家族	主なキャンセル理由 インフルエンザ
平成23年度 大分市立のつはる少年自然の家主催事業実績					
月日	名称	募集要件	応募状況	参加実績	備考
4/30(土)	ピクニック DAY in のつはる	20家族	22家族	22家族	
5/21(土)	星空散歩	どなたでも (50名)	70名	70名	
6/25(土)～ 6/26(日)	家族と遊ぼう 県民の森 ラベンダー祭り	30家族	23家族	23家族	
7/23(土)～ 7/24(日)	サイエンスキャンプ	小5～中学生 (40名)	97名	38名	抽選による
8/20(土)～ 8/21(日)	ワイルド夏冒険 2011	小4～中学生 (50名)	32名	18名	主なキャンセル理由 学校行事と重なった
11/5(土)～ 11/6(日)	秋のファミリーパーク	20家族	18家族	16家族	キャンセル理由 不明
11/12(土)～ 11/13(日)	ミステリー大作戦	小4～中学生 (50名)	46名	39名	キャンセル理由 不明
2/25(土)～ 2/26(日)	キッズわくわく 2012	小4～中学生 (40名)	22名	18名	主なキャンセル理由 インフルエンザ

重点施策 (2) 人権を尊重する社会づくりの推進

1. 目標

○「市民一人ひとりが互いに人権を尊重し合い、共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現」をめざし、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人、HIV感染者、ハンセン病患者・元患者をめぐる人権問題など、身のまわりにあるさまざまな人権問題の解決に向けて取り組む。

○学校や地域における人権教育を推進し、「差別をしない、させない、許さない」という意欲と実践力をもった市民の育成に努める。

2. 取組の進捗状況

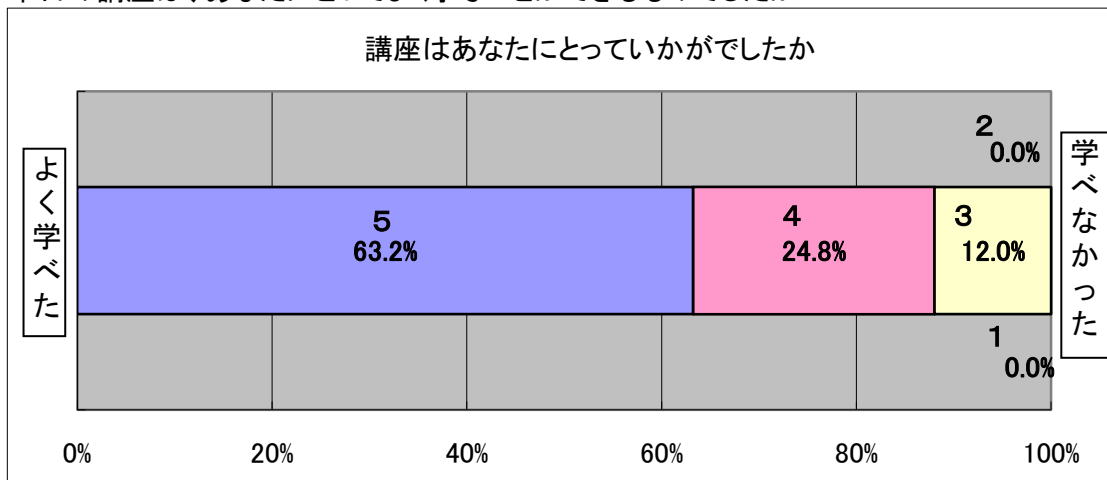
具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
①学校教育における人権・同和教育の推進						
子どもの意欲と実践力の育成	人権作文の応募率 (各学校学年1点)	79%	91%	100%	応募を希望制としたため目標は達成できなかったが、応募率は年々上昇している。	B
教職員の研修の充実	校内研修の延べ実施回数	264回	324回	280回	短時間で研修が実施でき、効果的な研修となるよう人権だより「ててマル」の内容の充実に努めた。	A
保護者への人権啓発事業	人権啓発講演会などの開催学校数	12校	36校	30校	PTA対象の講演会の実施を呼びかけるとともに、講演内容の充実に努めた。	A
<p>●学校の人権・同和教育について、学んだ内容が定着していくためには、保護者と連携しながら取り組んでいくことが重要である。したがって、徐々にではあるが、保護者啓発の機会が増加してきていることの持つ意味は大きい。</p> <p>▲教職員研修については、短時間で効果的な研修ができるように工夫したため、研修回数は目標値を達成できた。さらに、資料が充実しているとの声もいただいている。今後一層充実した研修とするためには、ある程度のもとまった研修時間の確保が必要である。</p>						
②社会教育における人権・同和教育の推進						
地区公民館の人権講座	人権講座の講座数	16講座	26講座	18講座	13地区公民館すべてにおいて、専門講座と人権講座が実施できるようになった。	A
地区人権教育推進協議会	地区人権協の設置数	12	13	13	昨年度植田地区人権協が発足したことにより、大分市をのすべての地域を網羅できるようになった。	A
大分市人権・同和教育推進連絡協議会	加入団体数	82	89	100	協議会に加入している企業同士が合併するなど加入団体数の減少等もあったため、目標値を達成することができなかった。	C
地区人権教育推進協議会	学習会の参加者数	2,608人	5,838人	2,700人	各地区人権協に対して、積極的に学習会の開催を呼びかけるとともに、内容の充実に努めた。	A
<p>●各地区人権協事務局が、自治会等に積極的に学習会の開催を呼びかけるとともに、研修内容の充実に努めたため、実施回数が増加し参加者数の大幅な増加が見られた。</p> <p>●アンケート結果によれば、人権講座に対する満足度は、非常に高いと考えられる。</p> <p>▲大分市人権・同和教育推進連絡協議会については、個別に会社訪問等を行っているが、加盟数の増加につながらない場合もある。今後も一層企業等への働きかけが必要である。</p>						

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
③人権啓発の推進						
人権啓発研修会などの人権啓発事業	講師派遣回数	222回	280回	240回	地域や学校において研修会の実施を呼びかけたため、講師派遣の要望が多くなった。	A
人権にかかわる視聴覚教材の充実	ビデオテープ、DVDの所蔵数	140本	182本	150本	他課と調整し、内容も吟味しながら効果的な教材を購入した。	A
大分市人権問題講師団の充実	講師登録者数	20人	31人	30人	講師団への登録を積極的に呼びかけたため、登録者数の増加が見られた。	A
<p>●様々な機会をとらえ研修会の実施を呼びかけるとともに、身近な話題や、心情に訴える教材を取り入れる等、内容の充実を図ったため、人権・同和問題に関する研修会の開催要望が多く寄せられた。</p>						

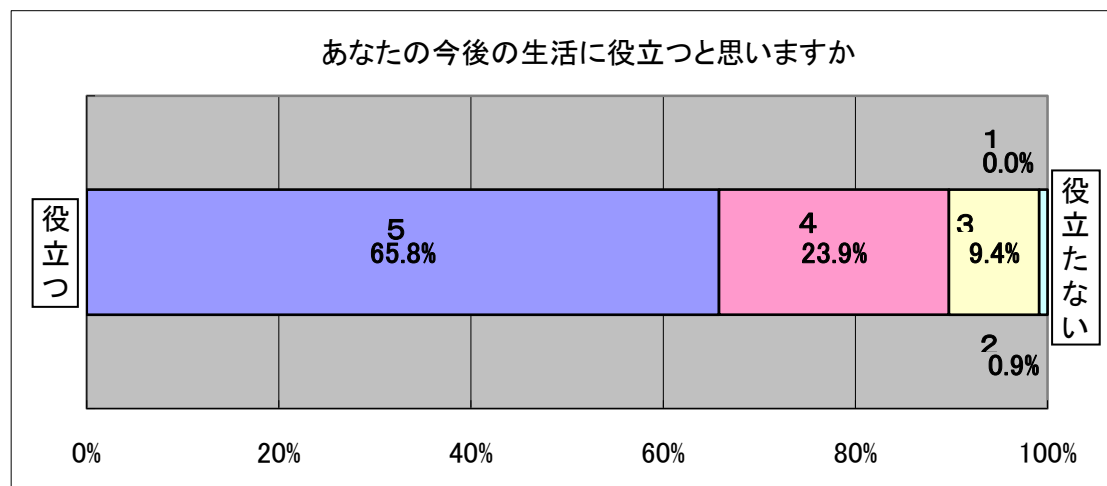
3. 参考

○ 南大分公民館人権・同和問題専門講座アンケート結果(5回シリーズ計120人分、5段階評価)

・本日の講座は、あなたにとってよく学ぶことができましたか



・本日の講座は、あなたの今後の生活に役立つと思いますか



重点施策 (3) 個性豊かな文化の創造と発信

1. 目標

- 真の豊かさやゆとりや潤いのある地域社会の創造をめざし、子どもから大人までが優れた芸術文化に親しむ場や文化活動に対する学習機会を提供するための基盤づくりを推進し、芸術文化に関する幅広い情報の提供に努める。
- 地域に生活する人々のやすらぎや連帯感、郷土意識を高めるため、地域に根ざした歴史や伝統・文化を伝えるかけがえのない文化財の保護に努め、地域の様々な文化財情報を発信することにより、自然や歴史的景観と調和した個性的で魅力あふれるまちづくりを推進する。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
①独自の文化の創造と発信						
優れた美術を鑑賞する機会の提供	所蔵作品の公開率	87%	93%	89%	目標年度に向けて順調に推移している。	A
	美術館施設利用者数	193,095人	723,295人	232,000人	テオヤンセン展等の集客力のある企画内容やマスコミとの連携による広報効果により、大幅な利用者増となった。	A
市民の自主的・創造的 文化活動の促進	アートプラザ利用率	86%	85%	87%	対前年度1ポイントの上昇となった。	B
	アートプラザ利用者数	127,014人	178,747人	152,000人	ホールのイベント開催等により、順調に利用者数が増加している。	A
本市独自の文化の創造 と発信	常設展出品作の作品解説整備率	15%	74%	31%	年間4回の展示替えの都度解説を整備しており、整備率が進んでいる。	A
<p>●優れた企画展により、大幅な観覧者増が得られた。</p> <p>▲事業費が毎年削減される中、より効果的な企画展の開催方法について検討していかなければならない。</p> <p>▲アートプラザ(指定管理者)の利用者数は目標に達しているが、施設利用率については、前年利用者に対しての再利用の働きかけにより若干向上したものの、まだ目標に達成していないことから、引き続き利用率回復に向けた努力が必要とされる。</p>						
②文化活動の振興						
文化活動団体やアーティストとの協働による事業の推進	外部講師数	9人	14人	9人	西洋絵画展及びテオ・ヤンセン展などにより増加した	A
<p>●上野の森アートフェスティバルや美術館で音楽会などを通じて、文化活動団体やアーティストとの協働による事業の展開ができています。</p> <p>▲各種講座については、予算縮減の中で、内部講師による講座の充実を図っているが、講座内容が限られてくる。</p>						

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
③文化施設の整備や機能の充実						
資料の収集・保管、調査研究、教育普及、情報提供などの機能の充実	所蔵作品数	1,924点	2,673点	2,083点	すでに目標値は達成できているが、優れた美術品の収集を引き続き行うことが必要と考える。	A
文化活動を行う多くの市民が交流しあえる場の提供	芸術文化講座数	17講座	32講座	18講座	年間を通しての広く、芸術に親しむ講座や夏休みを中心とした子ども講座を開催するなど、活発な事業展開により、目標値は達成できている。	A
<p>●資料の収集については、購入、寄贈により点数を増やすことができた。</p> <p>●講座・講演会等については述べ82回を開催し、5,700人を超える参加者が得られ、目標の達成ができた。</p> <p>▲優れた作品を収集するためには多額の購入予算が必要であるが、予算縮減の中でますます厳しい選択を行わなければならない。</p>						
④文化財の保護・保存・活用						
文化財の適正な保存・調査・収蔵・公開・活用	大友氏遺跡の保存・活用	追加指定・公有化	整備基本計画の検討	整備基本計画策定	平成23年9月21日に12789.86㎡、平成24年1月24日に677.81㎡の追加指定を受け、2140.46㎡が公有化された。	C
	横尾貝塚の保存・活用	指定申請	整備計画の検討	整備計画の検討	縄文体験活動を実施したり、遺跡の管理を行うボランティア団体が発足したりする等、今後の遺跡の活用に向けた市民との連携が進んでいる。	A
	文化財指定数	171件	194件	177件	年間2件の大分市指定文化財指定の目標が順調に達成できている。	A
文化財に関する情報提供機能の充実	指定文化財・資料館収蔵資料の公開数	85件	138件	150件	公開数が伸び悩み、目標数に到達しなかった。	B
市民の学習・交流の場の提供	歴史資料館施設利用者数	40,433人	41,840人	41,000人	指標は越えているものの、昨年度より利用者は減少した。	A
	体験学習メニューの充実	10種類	12種類	12種類	新規体験メニューの開発を実施している。	A
<p>●横尾貝塚については、地元住民と意見交換会を実施し、史跡の清掃等の管理の仕組みづくりができた。</p> <p>●新たに無形文化財を調査することで、国指定・市指定・県指定併せて4件を新たに指定文化財とすることができた。</p> <p>▲大友氏遺跡については、順調に指定・公有化が進んでいるが、整備に関しては、高架事業等により、確認調査に遅れが生じている。</p> <p>▲歴史資料館施設利用については、市民の学習交流の場の提供や宣伝活動を実施し、利用者数は指標を越えてはいるが、利用者数が微減しているため、利用拡大に向け新しい体験メニューの開拓や、学校等へのPR活動の強化が必要である。</p> <p>▲歴史資料館収蔵資料の公開については、月ごとの公開目標数をたてる等、確実に公開数を増加させる取組みが必要である。</p>						

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
⑤伝統的な芸能、行事の保存・継承						
伝統芸能、行事などの保存・継承	伝統文化調査報告書の刊行	報告書 2冊刊行	報告書 10冊刊行	報告書 ※13冊刊行	23年度、4地区の記録保存ができた。	B
<p>●これまでに10冊報告書の刊行ができた。</p> <p>▲調査・報告書原稿作成に時間を要するため、効率よく刊行の計画を進める必要がある。</p> <p>※大在地区は既刊の報告書があるため、当初の予定であった14冊から13冊に変更する。</p>						

3. 参考

(美術館のアンケート意見 抜粋)

○満足の意見

- ・テオヤンセン展…実際に動くのを見て感動した。砂浜が楽しかった。
- ・西洋絵画展…普段見られない本物が見れた。レンブラントが素晴らしかった。勉強になった。
- ・田能村竹田展は…竹田の色鮮やかな世界が展示できていた。展示内容がよかった
- ・常設展…いろいろな絵があつてよかった。展示方法が工夫されていて良かった。
 - …高倉観崖をはじめてみてうれしかった。
 - …以前より内容が充実している。
- ・各種講座等…とても楽しく参加が出来た。楽しい時間が過ごせた。
 - …子どもと一緒に楽しめた。美術に興味を湧いた。

○不満の意見

- ・テオヤンセン展…もっと動いているのを見たかった。
- ・田能村竹田展…竹田の作品が少なかった。
- ・常設展…展示内容が代わり映えしない。
 - …テーマに沿った解説が欲しい。

※アンケートから把握できる満足度について

- ・展覧会については、本物の美術品を鑑賞することの満足度が高い
- ・不満理由として、展示作品数や解説に対する不満が挙げられる。

(歴史資料館利用者の声)

私が一番びっくりしたのは、「明るさ体験」です。石と石をたたいたら火花が出たのにびっくりしました。暗い「あんどん」の明かりで勉強していた昔の人はすごいなと思いました。

重点施策 (4) スポーツ・レクリエーションの振興

1. 目標

○ 市民の誰もが身近な所で気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、生涯にわたって健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、「大分市スポーツ振興基本計画」を策定し、市民が主体的に取り組む環境づくり、多彩な活動機会の提供、指導体制の確立、情報提供機能の充実に努めるとともに、各種競技スポーツの競技力の向上を図る。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
①生涯スポーツの推進						
生涯スポーツの取組への支援	これまでのスポーツ教室の実施校区・地区数	26	30	28	各校区地区に「中高年並びに青少年スポーツ教室」の開催を奨励した結果新たに2校区・地区が開催した。	A
健康増進活動やスポーツ・レクリエーションの普及	多世代参加型行事への参加者数	23,078人	28,116人	25,000人	各校区・地区体育協会が、運動会等の多世代参加型の行事の開催に積極的に取り組んだ結果、多くの地域住民がスポーツに親しむようになってきている。	A
総合型地域スポーツクラブの展開の支援	モデルクラブ創設及びその活動支援と検証	クラブ活動実践・検証	全市展開	全市展開	各クラブの運営委員会等で指導・助言を行うことにより、健全な運営に向けた取り組みが進められている。また、全市展開に向け、市内5ブロックにおいて定期的に学習会を開催した。その結果、本年度末に新たに1クラブが設立し、3校区・地区が設立準備を開始した。	A
<p>●生涯スポーツ社会の実現に向け、各校区・地区体育協会の特色ある行事の開催や総合型地域スポーツクラブによる地域住民のニーズにあった教室・イベントの開催により、多くの市民のスポーツに対する興味関心が高まっている。</p> <p>▲総合型地域スポーツクラブの活動の推進には、財源・会員・拠点施設の確保等が課題である。</p>						
②競技スポーツの振興						
各種競技団体の活動支援	県民体育大会の優勝種目数(種目数38)	23	17	24	今年度も各競技の競技力向上と士気の高揚を図るため、計画的な練習計画を策定するよう助言するとともに強化練習会に出向き激励した。優勝種目数は目標に及ばなかったが、各競技において24競技が男女種目別優勝を果たした。	C
選手の育成・強化と指導者の養成						
大学・企業などへのスポーツ振興の働きかけ						
<p>●県民体育大会での優勝数は目標には及ばなかったが、競技団体の研修会や強化練習会等により、競技力は着実に向上しており、32年連続通算57回目の総合優勝を飾った。</p> <p>▲他郡市においても各競技の強化を積極的に図っており、苦戦を強いられているが、競技力の向上更なる強化練習が必要となっている。</p>						

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	23年度実績	23年度指標	23年度の進捗状況	評価
③指導体制の確立						
指導者の資質向上	指導者研修会の参加者数	340人	1,036人	550人	各競技団体のニーズに対応した研修会の充実を周知したところ、特にスポーツ少年団の指導者研修会の参加者が大幅に増加し資質向上が図られた。	A
<p>●競技団体による積極的な指導者研修会により、指導者の資質向上が図られ、青少年の健全育成や競技力向上に反映されている。</p> <p>▲技術力向上に向けた研修会のあり方について検討する必要がある。</p>						
④スポーツ・レクリエーション施設の整備						
多目的広場や地域の体育施設の整備	体育施設の整備	検討	整備	整備	現状の体育施設の保守点検・整備を行った。	B
民間施設なども含めた体育施設の効率的な市民利用の促進	利用可能な民間所有の施設数	0	1	3	新たな民間所有の施設の掘り起こしは出来なかった。	B
<p>●新たな体育施設の建設が難しいため、現有施設の保守点検・整備をおこなった。</p> <p>▲市内のスポーツ施設の利用状況は、飽和状態に近く、また、多様化する市民のスポーツニーズに対応するため、施設の新設や休遊地の有効活用が必要となっている。</p> <p>▲民間所有の体育施設は、地域に貸し出しを行っており、手続きの簡素化や利用時間拡大のための方策の検討が必要である。</p>						
⑤情報提供機能の充実						
施設情報の提供や予約機能の充実	施設紹介の充実及び利用手続きの簡素化	実施	実施	検証	ホームページの施設紹介の内容を更新した。	A
<p>●施設情報や体育的行事をホームページで積極的に知らせた。</p> <p>●現在の公共施設予約案内システムに対しての市民からの要望は特に無い。</p> <p>▲公共施設予約案内システムの登録者を増やす広報が必要である。</p>						

重点施策 (5) 本市教育を推進する教育委員会の充実

1. 目標

○教育委員には、地方公共団体における教育行政の責任ある担い手として、地域のニーズに応じた教育行政を主体的に企画し実行していくことが、いっそう強く求められている。そこで、保護者や地域住民の期待にこたえる質の高い教育を実現していくために、教育委員会体制をより充実し、教育改革を推進する。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度 の状況	23年度 実績	23年度 指標	23年度の進捗状況	評価
①教育委員会の活性化						
ホームページの充実	掲載内容の見直し	検 討	実 施	実 施	教育委員会会議の掲載について、「審議結果」の掲載から「会議録」の掲載へと見直した。	A
市長事務局との連携強化	教育委員と市長との意見交換会の実施	検 討	実 施	実 施	意見交換会を1回実施した。テーマ「小中一貫教育の推進と確かな学力の定着・向上並びに体力の向上について」	A
教育委員の視察・研修への取組	学校、各種教育施設の視察	1 回	3 回	2 回	学校、教育施設等の訪問(11月、1月)、九州地区市町村教育委員会連合会研修大会(8月)	A
教育委員会会議への校長、園長、教頭などの輪番出席制の導入	説明員の増員	検 討	※実施	※実施	指標の見直しを実施し、教育委員と校長等による教育懇談会をおこなった。	D
<p>●ホームページについては、トップページに教育委員会の項目を新たに設置し、市民が利用しやすいように変更した。また、教育委員会の会議録を掲載し、教育委員会における意志決定過程を市民に広く周知できるようにした。</p> <p>▲「教育委員が学校現場の状況についてより一層把握すること」を目的として、教育委員会会議への校長等の輪番制出席について、検討していた。しかし、1回に出席できる人数に制限があり、全学校(園)長が出席するまで5年程度かかることが判明した。</p> <p>このことから、1回に10名程度参加できる教育懇談会を計画し、年数回実施する指標へと見直しを実施した。この方法であれば、2年程度で全学校(園)長が参加でき、学校現場の状況を教育委員が把握することができる。</p> <p>※見直した方法による実施</p>						
②教育委員会事務局の組織・機構の整備						
組織の機能や権限の弾力的運用への取組	市長事務局との検討	検 討	検討・実施	検討・実施	全課において係制を廃止し、グループ制を導入した。	A
行政改革推進プランに基づく取組	業務執行方式の見直し	検 討	検討・実施	検討・実施	学校主事については、新たに3中学校区で正規職員に替え、嘱託職員を配置した。(累計21中学校区)	A
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価などへの取組	点検評価方法の検討	検 討	実 施	実 施	学識経験者の知見を活用し、数値的な評価だけでなく、対象者の満足度等、質的な評価の観点を掲載するなどの改善を図った。	A
<p>●教育委員会事務局においては、全課(未導入の3課)における係制を廃止し、高度化・多様化するニーズに対応するためグループ制を導入した。</p> <p>●大分市教育ビジョン第Ⅱ期基本計画(平成24年度～28年度)については、平成23年度までの第Ⅰ期計画の進捗状況、国や県の動向、社会情勢の変化などを踏まえ、見直しを行った。</p> <p>▲財務管理については、費用対効果のコスト意識をさらに高め、優先度の高い事業については積極的に事業を展開するとともに、依然として厳しい財政状況の中で、最小の経費で最大の効果が得られるよう適正な事務に務める必要がある。</p>						

第Ⅱ章 学識経験者による意見

○ 別府大学短期大学部学長 金子 進之助 氏

1. 平成23年度の成果について、全体として103項目中、A評価が72項目(69.9%)、B評価が15項目(14.6%)、C評価が12項目(11.6%)、D評価が1項目(1%)であり、よい達成率を挙げたと考えます。
2. C評価、D評価について、必ずしも低いものではなく、実質的にはB評価でもよいのではないかと思われるものがありました。C評価の項目は、p14 預かり保育実施回数・時間、p15 の標準学力検査における各教科の到達指標、p16 新体力テストでの全国平均以上の種目の割合、p17 プールの改築実施校数、p19～20 家庭教育を支援するための取組4項目、p22 少年自然の家主催事業参加率、p23 大分市人権・同和教育推進連絡協議会加入団体数、p28 県民体育大会の優勝種目数、D評価の項目は、p30 教育委員会会議への校長らの輪番出席制度などである。これらのうちには、達成できない合理的な理由のあるものがあります。(例、校舎の耐震工事に重点をおいたために、プールの改築は目標に達しなかった……これは大震災後に選択順位を変えたものであり、むしろ合理的な選択であったといえましょう。また公民館における子育て支援事業を、従来のようにイベント抱き合わせでなくし、本来の姿にして実質の参加者を挙げ、そのために参加者数は減少していますが、これはむしろ本来の姿にしたためなので、一時的にはやむを得ないものと考えられます。)
3. 幼稚園の預かり保育の実施回数などは、幼稚園だけで評価するのではなく市全体の乳幼児の保育の必要ニーズと、他の資源(保育所や保育ママ)などとの関連の中で、トータルに評価されるべきことだと思われます。その点では、今回教育委員会所管の計画ではありますが、他の部局と連携した事業評価も必要でありましょう。
4. 教育委員会の活動が、議事録の公開という形でオープン化されたことは評価されま
5. 今回の評価が、あらかじめ設定された目標項目の達成度という形で、成果の評価を行っているために、数量的な評価を行う形になるのはやむを得ないことです。ただ実際に目標値に達したのも、そうでないものも、市民にとって、実際にどのような利益や意味があったかという質的な評価も必要でしょう。
6. 本事業推進中に、東日本大震災が発生しました。早速教育委員会では、「大分市学校災害対策マニュアル(暫定版)」を作成されたとのことで、心強い限りです。日頃から防災・避難訓練に活用されその実をあげることを願います。

1. 教育委員会の活動及び運営状況について

教育委員会の活動は、定例会 12 回、臨時会が 9 回実施され、計 82 件の審議が行われた。審議内容を見ると、規則の制定・改廃、予算等の議案、委員会委員委嘱、人事に関する事柄が多い。教育委員会の性質上止むを得ないが、一方で、将来計画を展望しながら、より積極的に、社会教育の側面も打ち出し、「豊かな人間性の創造」に、更に実効ある施策が打ち出されていくことが期待される。

2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価について

1) 評価基準の柔軟性に関して

毎年度の「点検及び評価」は、平成 20 年 5 月に策定された「大分市教育ビジョン」に基いて行われる。ビジョンで打ち出された各施策の取組状況について、重点施策に関しては指標を定め、目標を立てて点検・評価した結果が報告されている。このような報告の性質上、「各項目については、進捗状況と A~D の評価」が詳細になされている。

全 100 項目の評価は、A 評価が 72 項目 (69.9%)、B 評価が 15 項目 (14.6%)、C 評価が 12 項目 (11.6%)、D 評価が 1 項目となっている。これらの評価状況は、一定の基準に基いて出されたものであり、概ね、順調に進捗していると言える。但し、実施方法を改善したために動員人数が減り、そのために C 評価になってしまった項目もあった。また、D 評価が付いた教育委員会会議への校長・園長等の出席については、教育懇談会の実施に切り替えるという方策がとられていた。このような「実施方法の改善」は、年度が始まってからも適宜行われるものであり、一律に評価基準を当てはめたために低く出過ぎた項目もあることは念頭に置いた方が良い。また、B 評価が付いていても、達成度が 80% 台後半であれば、かなり達成されていると考えられ、「評価基準の設定方法」について、今後、検討の余地があると言える。

2) 評価項目同士の関連性・評価項目と政策の関わりを意識して評価する必要性

一方で、これらの施策の評価は、項目毎になされている。各項目は、市の教育ビジョン、更に、上位の、大分市の政策を受けたものであり、それとの関係性が、明確にされる必要がある。

例えば、大分市や大分県、日本全体では、次世代育成は何より大切な事柄である。社会の活力に直結する問題だからである。企業の労働力確保の側面から見ても、男女共同参画の側面から見ても、待機児童の解消は、大きな社会的な課題である。大分市には、平成 24 年 4 月時点で約 50 人の待機児童がおり、その数は、ここ 3 年ほど毎年倍増している。また、例年 10 月には、待機児童の数が 4 月の 4 倍ほどに膨れ上がっているという現実がある。【市立幼稚園における「預かり保育」の充実】は、徐々に増加はしているものの、平成 23 年度には週 2 回の目標が週 1 回に留まった園が多く、C 評価であった。これらの点を考慮すれば、市立幼稚園を保育所に転換する位のニーズが現実に大分市内にあることが、点検・評価の結果として、提示されたと言える。市立幼稚園の園児は、私立幼稚園の定員(5585 人)と在籍園児数を比べた時に、吸収可能にも見える。【大分市人権・同和教育推進連絡協議会】の加入団体数は、「合併により脱退する企業等があり、目標値を達成できなかった」(C 評価)が、待機児童の解消は企業誘致の上でも必要な施策であろう。

以上は、一例であるが、C 評価の所をつなぎ合わせれば、現在の大分市の現状が浮かび上がり、かつ、将来に向けての課題が提示される。教育および次世代育成は大分市のみならず全国的に非常に重要な事柄である。指標の提示方法に留意しつつ、今回の結果を真摯に読み解く必要がある。

最後に、新しく大分市に住み始めた人間として、とても残念に思うのは、食堂や建物で分煙が徹底されていないことである。今回、【喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実】は B 評価であった。主に、薬物乱用が取り上げられているが、喫煙防止は、青少年の心身の健康にとって非常に重要である。教室開催を指標にするだけでなく、今後、日常の居住空間の分煙の実施状況等も指標として取り上げ、点検・評価の対象として頂きたい。

○ 国立大学法人大分大学理事・副学長 山崎 清男 氏

1. 教育委員会の活動及び運営状況

いうまでもなく教育委員会制度のねらいは、地域住民による教育（行政）の創造である。換言すれば地域住民の「教育意思」を教育（行政）に反映させることである。教育委員会会議は定例12回、臨時会議9回、計21回開催されている。議事内容も多岐にわたっており、今日の教育行政を巡る問題の多様さがうかがえる。全教育委員が、多くの教育行政問題に積極的に関わりながら、教育（行政）改革に取り組んでいる姿が読み取れる。さらに、市長との意見交換は、一般行政と教育行政の「連携」を推進する上で重要なことであり、評価すべき事項である。また学校訪問等の視察や研修会の実施は、教育を巡る今日の教育上の諸問題を、教育行政施策に反映する上で重要である。このような活動実態から、「動く教育委員（会）」として、高く評価されてよいと思われる。

たしかに積極的に活動する教育委員会として多くの活動が展開されているが、活動の内容を「市民目線」で示すことも必要であるといえよう。換言すれば、教育委員会の活動が、大分市の教育行政施策の策定にどのように関わっているかが、わかりやすく丁寧に示されることも重要なことであろう。

2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

23年度対象の評価は、指標指数を示し達成に向けて様々な取組が実行され、その結果多くの施策は高い評価を得ているといえよう。その意味では、教育委員会の活動は活発になされているものと思われる。しかし以下のような問題点も指摘できよう。たとえば、評価が開催回数というように、数字のみで示される場合があるがその内実—参加者の満足度等—ではかられるというようなことも必要である（もちろん数字や指数の重要性を否定するものではない）。「形式的評価（達成）」と「実質的評価（達成）」の両者を取り入れた評価が重要であるといえよう。そこで、「時代の流れ」を踏まえた評価の方法（視点）が考えられねばならないと思われる。

いずれにしても、取組がきちんと記述された「評価報告書」であり、「大分市教育ビジョン」の点検・評価は5項目の重点施策について行われている。紙数の関係上、すべてに関し詳細に述べることは出来ないが、まず全体的観点から意見を述べてみる。「進捗状況」を踏まえた23年度指標に対する実績に基づいた評価は、「23年度指標を上回っている」A項目は69.9%であり、「23年度指標はやや下回っているが、ほぼ達成している」B項目は14.6%である。このことから、教育委員会各部局で目標達成に向けた取組が、真摯になされていることが読み取れよう。「進捗状況」も明文化され、全体的に丁寧に説明されているので理解しやすい。評価項目でC、Dもみられるが、そのような項目に対しては、年度指標のねらいを再確認しつつ、目標達成に対する問題点を丁寧に洗い出すことが必要である。その際、P-D-C-Aのマネジメント理論を活用し、きちんと整理することが求められる。評価結果からは、大分市教育委員会の教育行政推進に対する積極的姿勢が感じられる。この「点検・評価」の積極的活用を期待する。